

何歳から大腸がんになりやすくなるの？

一部の例外を除き、がんは高齢になるほどかかる危険性が高くなる病気です。大腸がんも同様です。男女とも40歳代から、大腸がんになる可能性が上がります。高齢になればなるほどその可能性は増えていきます。また男女別では、男性の罹患数が6万2116人、女性が4万4788人（いずれも2006年度）と推定され、男性に多い傾向がみられます。

大腸がんは男性がかかるがんなのでは…？

2003年以降は女性のがん死亡原因の第一位が大腸がんです。現在、女性がかかるがんで最も多いのが乳がんです。一方で女性のがん死亡原因の第一位は乳がんではなく、大腸がんです。大腸がんは、男性でもかかる人が多く、女性特有のがんではないため、他人事と思っている女性もいるかもしれませんが、乳がんや子宮頸がんとともに女性にとっても危険性が高いがんなのです。

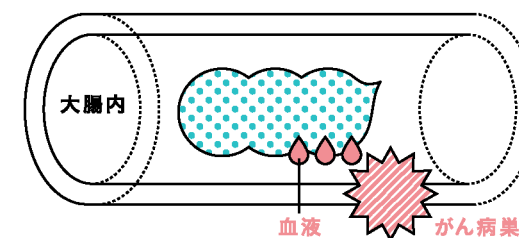
大腸がん検診では、どのような検診をするのですか？

大腸がん検診では便潜血検査（一次検査）を行い、必要に応じて大腸内視鏡検査など精密検査を行います。

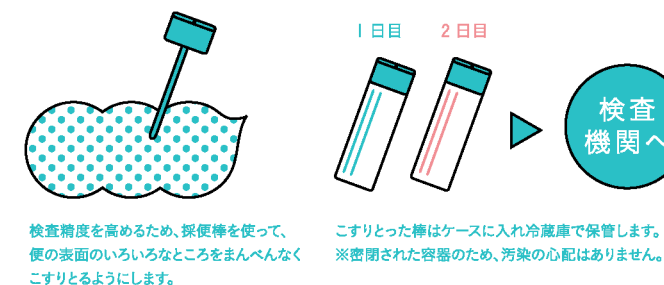
○便潜血検査（一次検査）

大腸がん検診では、便に混じった大腸からの出血を調べる「便潜血検査」、いわゆる検便が行われます。自覚症状のない人々の集団から、大腸がんの危険性がある人を絞り込む検査で、大腸がんの死亡を減少させる十分な科学的根拠がある検査として認められています。便の採取は自宅ででき、検査前の食事制限もない簡単な検査です。通常、二日に分けて便を採取し、検査機関等に提出します。一次検査の結果は後日、検査機関等から通知されます。

大腸にがんやポリープなどがあると、便が出てくるときにこすられて、便に血液が付着することがあります。便潜血検査は、便に付着した目には見えない微量な血液でも調べることができます。



通常2日間に分けて便を採取します。
1回でも陽性反応があれば、精密検査を行います。



検査精度を高めるため、採便棒を使って、便の表面のいろいろなところをまんべんなくこすりとりましょう。

こすり取った棒はケースに入れ冷蔵庫で保管します。
※密閉された容器のため、汚染の心配はありません。